

## 2月レポート 「日米の小さな架け橋に」

フィンドレー大学での生活も残り約2ヶ月となりました。本当にあっという間に時間が過ぎるのを日々感じています。2月レポートでは、私が行っている日本語ボランティアとインタビュー企画について述べたいと思います。

### 1. 日本語ボランティア

図1：日本語ボランティア資料例

Pronunciation	Meaning	Japanese
<b>Meet with someone</b>		
◎ Ohayo Gozai-masu ↳ Ohayo	Good morning (Frank)	おはようございます おはよう
◎ Kon-nichi-wa	Good afternoon	こんにちは
◎ Kon-ban-wa	Good evening	こんばんわ
◎ Oyasumi-nasai ↳ Oyasumi	Good night (Frank)	おやすみなさい おやすみ
☆ Aligato-Gozaimasu (Polite) ◎ Aligato	Thank you. (Frank)	ありがとうございます ありがとう
○ Ogenki-deska ↳ Genki?	How are you? (Frank)	お元気ですか 元気?
◎ Sayo-nara	Goodbye	さようなら
◎ Osewa ni nari-mashita	Farewell phrase for elder person (Thank you for a long time)	お世話になりました
◎ Otsukare-samadass	(Thank for someone's work)	お疲れ様です
<b>Go out/Come back</b>		
○ Itte kimasu ↳ Itte Lasshay	(Greeting before go outside) (Greeting for people go outside)	いってきます いってらっしゃい
○ Tada-ima ↳ Oka-eri	I'm home. Welcome back.	ただいま おかえり
◎ Ojama shimass	(come into elder person's house/room)	おじゃまします
☆ Shitsu-rei shimass		失礼します
○ Donata-deska?	Who is it? (Polite)	どなたですか?
○ Douzo	(Permission, Polite)	どうぞ

私は今学期から、5人のアメリカ人学生に日本語や日本文化を教えるボランティアを行っています。彼らは今年の5月から6月にかけて北海道で獣医学を学ぶ学生で、私はその留学準備のサポートをしています。全員日本のことはほとんど知らず、なかには今回が初めての海外経験となる学生もいます。あくまでも獣医学を学ぶことや異文化に触れることがこの留学の主な目的であって、それが日本語の習得ではないことを理解し、彼らがスムーズに日本での生活に順応できるようにサポートを考えて実行中です。もちろん最低限の日本語でのあいさつや自己紹介等は扱うようにしていますが、それ以外にもお辞儀のような特有

の動作やお金の種類、数の数え方、また日本で人気の歌を紹介したりと内容は様々です。決められた留学準備プランはなく私ともう一人の日本人学生で全て内容や方法を考えて行います。出発までの限られた時間、全てを任されている自由さに大変だと感じることもあります。日本とアメリカの小さな架け橋になれるように一生懸命取り組んでいます。

### 2. インタビュー企画

日本語ボランティアに加えて、埼玉親善大使としての日米親善インタビュー企画を立ち上げました。このフィンドレー大学への留学では、単に大学で勉強をするだけでなく、埼玉県とオハイオ州の親善に貢献することも一つの目的

です。同大学には福井県からの親善大使もおり、協力して同大学前学長や現学長、またフィンドレー市長などにインタビューすることにしました。この大学や市をリードする方々に話を聞き、それに基づき対談集を作成する予定です。埼玉や福井の、特に若い人たちに私たちが聞いたことを伝えられれば、この留学プログラムや留学そのものへの関心向上につながると考えています。インタビューでは、学生が若いうちから留学、異文化交流することへの意義やご自身の過去等を語っていただいています。既に前学長へのインタビューを終え、さらに準備を進めています。またこれから行う予定の現学長、市長共に私たちのオファーに快諾して下さい感謝の気持ちでいっぱいです。この企画を発案するまでインタビューをしたことは一度もなく、非常に難しいですが本当に学ぶことが多いです。何を目的に、誰を選び、何を聞くか。そのためにはその人についてまず深く知る必要があります。こちらでの生活も残りわずかではありますが、出来る限りのことをして多くの経験を積みたいと思います。



図2：前学長インタビュー（右：私、左：福井親善大使）